

東海民放クラブだより

東海民放クラブ総会 30周年記念式典

5月15日(火曜)午前10時から、名古屋栄のアパホテルで総会と、創立30年という大きな節目の記念式典が行われた。

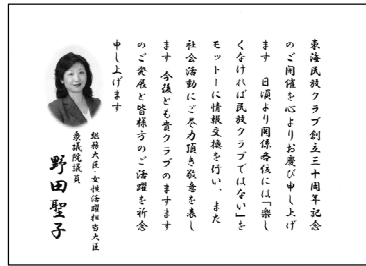
在名各局の代表、日本民放クラブ会長、関西、北陸の各理事長が来賓、会員70名が出席。

総会は前年度・今年度の各報告、規約改正、役員の改選等が満場一致で承認される。又、今年度傘寿受賞者は19名で、手塚会長からお祝いが贈呈された。



↑ 手塚会長
左 森協理事長
右 傘寿受賞者

記念式典では野田聖子総務大臣から挨拶文を頂戴する。



来賓の在名各局を代表して中部日本放送・杉浦社長の挨拶があり、続いて東海民放クラブ30年の歩みを振り返るDVDの放映。懐かしい顔ぶれが画面に登場すると会場はどよめく。

各社代表挨拶
杉浦CBC社長

東海民放クラブ
30年を振り返って
記録ビデオ

制作:理事会プロジェクトチーム
2018年(平成30年)5月15日(火)



講演する伏原健之さん

記念講演はテレビで評判となり、映画でも全国展開を続けている『人生フルーツ』の監督、伏原健之(けんし)さん。

伏原さんは現在東海テレビ放送報道局のチーフプロデューサー。まずは15分程に短縮した作品を上映。

愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家津端修一さんの家。ここで妻・英子さんと野菜・果実を作り、刺繍と編み物で囲まれながら、お互いに気遣い、おだやかに暮らしている。

かつて日本住宅公団のエースだった修一さんは数々の都市計画に携わってきたが、時代は経済優先。無機質な大規模団地しか残らず、己の信念を貫く為に自ら高蔵寺に

土地を買い、コツコツといてねいに50年の時が刻まれる。

テレビのドキュメンタリー番組は長時間取材しても放送時間に制約があり、良い所だけのつまみ編集が多い。

大林監督から記録より記憶に残るのが本物と聞き、淡々とした日常を地道に撮り続けてこそ真実が見え、津端さんの理解も得られたという。

貴重な生のドキュメンタリー制作の在り方を熱く語られました。懇親会では1年ぶりに会う方もいて話は尽きず、来年も元気に会場でおおうと約束してお開きとなりました。

これからも高齢化、会員減少等の現実を踏まえ、知恵を絞り40年の節目を目指したいと思えます。

第9回 全国マスメディア・ベスト・オブ・ベスト
文化映画第一位

監督 大林 宣彦
主演 津端修一 津端英子
脚本 津端修一

人生
フルーツ
Life in Fruits

制作:東海民放クラブ
制作:東海民放クラブプロジェクトチーム
制作:東海民放クラブプロジェクトチーム
制作:東海民放クラブプロジェクトチーム

荒川戦一 (CBC)